

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		<input type="checkbox"/> 開設当初からの理念に「地域」いうことばを付け加えた。全く新しい表現ではなく、これまで使ってきた理念を残したいという職員の意見もあり付け加える形になった。 <input type="checkbox"/> 地域密着型サービスになっても私たちの基本は変わらない。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		<input type="checkbox"/> 職員研修を通して、現在の職員は理解している。何を大切に利用者に向き合うかなどカンファレンスなどを通して確認されている。 <input type="checkbox"/> 理念を管理者と職員が意識しながら、日々利用者に関わる際に理念を具体化していけるように取り組んでいきたいと思う。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		<input type="checkbox"/> 運営推進会議を通して、地域の方々に伝えている。「流しソーメン」「夏祭り」などの行事へのお誘い、参加を通して事業所での利用者の暮らしぶりやグループホームを見学している。 <input type="checkbox"/> これからも運営推進会議を通して、地域への理念の浸透に取り組んでいきたい。 <input type="checkbox"/> 今以上に地域の方々との交流が多く持てる機会をつくりたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。		<input type="checkbox"/> 日常のゴミ出し、散歩時など利用者と共に挨拶は欠かさず、時に講演や道端などで立ち話などし、ご近所との交流を深めている。 <input type="checkbox"/> これからも近隣住民との交流は継続していく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		<input type="checkbox"/> 河川の掃除など利用者と一緒に参加し、交流を深めている。夏の盆踊り大会、小学校の学習発表会見学、新年会など利用者と共に参加し、交流に努めている。 <input type="checkbox"/> 今後も地域との交流は積極的に取り組んでいきたい。
6	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 特に行っていない。 <input type="checkbox"/> 運営推進会議等で事業所主催の講演会など提案したが「町内会でも行っているので、参加者がいないだろう」と却下された。	<input type="checkbox"/> 運営推進会議や町内会との交流を深める中で、地域で求められているものを把握し、ニーズに応えられるような地域貢献をこれから考えて取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価の意義や目的を全員に伝えている。自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体的な対策や実践につなげるため努力している。		型に定着した作業にならず、常に評価のねらいを理解しながら、評価できるよう今後も継続して取り組んでいきたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告しあい、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容について報告し、意見をもらうようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市で行う年3回の管理者会議に参加し、札幌市との連携強化を図っている。利用者の処遇で区役所の保健師に相談している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修や個々の勉強では理解している職員もいるが、全職員には十分理解されていない。	○	次年度の職場の研修会でのテーマとして「成年後見制度」を取り上げ、職員の理解を深め、必要な方に活用できるよう支援していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待をみたり、聞いたりしたときの対応方法について、事業所での体制があいまいである。年1回、虐待に関する外部の研修会に各ユニットから1名ずつ出席している。	○	職員研修で「高齢者虐待防止関連法」について学習していきたい。やってはいけないことを見たり、聞いたりしたときの対応方法を事業所として作成し、全職員に周知徹底できるように取り組みたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族などに対応方針を相談している。		高齢であったり、家族のいない方については親戚の方に説明しているが、親戚もいない方については成年後見制度などを活用していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者とのコミュニケーションする中で、そこから考えや態度を観察し、察するように努力し、利用者主体の運営に心がけている。		利用者自身が思いや意見を表現できなくなっているが、その中で本人の意向を察する努力をしていきたい。 本人の意向を真摯に受け止め、主任会議等で話し合い、取り組む努力をしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、家族通信を発行し、担当スタッフより現在の報告と写真を添付している。また、金銭管理は個人ごとのおこずかい帳を作成し、報告している。家族通信に退職するスタッフを報告している。	○	金銭管理のおこずかい帳については、来訪時見たというサインなどが必要か家族会等で検討していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を気軽に出来るような問いかけをし、何でも言える雰囲気づくりを心がけている。 出された意見や情報、要望などは主任会議やミーティングで話し合い、反映させている。		入居歴が長くなると、意見も少なくなっているため、家族会では気軽に話し合える場を設け意見交換をしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勉強会、個別面談を行い、意見を聞くようにしている。また、日ごろからコミュニケーションを図るよう心がけている。 懇親会を会社負担で年3回実施。職員の意見や提案を話しやすい場づくりを心がけている。運営者、管理者は共に職員の要望や意見を聞くよう心がけている。		入居者を決めるときや、退居の判断など現場の職員の意見を十分に聴き、活かしている。働く意欲の向上やサービスの質の向上につながる取り組みなどの意見の提案があると考慮の上実践の指導をしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。 勤務シフト上も無理のないよう、行事のときは人員を増やすなど工夫している。		利用者の状況によって必要な支援を柔軟に提供するために、管理者が月に何度か泊まりに入り、夜間の利用者の様子などを把握している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動、退職がやむを得ない場合も引き継ぎの面で最善の努力をしている。 各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も利用者さん一人一人にきちんと紹介している。		利用者へのダメージを最小にするための検討を職員全員でしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内では、キャリア別の勉強会や年間の研修の課題を設定をし、スタッフのケアの向上に努めている。 スキルアップのための外部で行われた研修などにも参加し、学んだ事を報告し、他スタッフにもわかるようにしている。	○ 職員の必要性に応じて年間を通して研修内容を決め、事業所主催の研修会は継続していく。 事業所外の研修も多く職員(パート)が受講できるように継続していく。 ケアも日々変化しているため、新しい事を学ぶことを大切にしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○ いろいろな勉強会や研修会の参加により、同業者との交流があり、情報交換の場があるため、ケアの工夫や改善の参考になっている。地域での同業者の交流の中で、災害時に使用する担架の作り方などを指導を受けた。	○ 今後は形式的な交流ではなく、事例検討会や実際に役に立つ交流を多く取組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○ 休憩室にはエアコン、空気洗浄機など設置し、くつろぎやすい環境に取り組んでいる。 事業所全体や各事業所ごとに親睦会を会社負担で実施し、ストレス解消に努めている。	○ 他のグループホームとの懇親会は行っていませんので、今後は取組んでいきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	○ 運営者は現場に来て、利用者と過ごしたり、職員の業務や悩みを把握している。 特に金銭的な支援はないが、資格取得の実務経験がある職員にはスキルアップのため、上級資格取得を勧め、アドバイスをを行っている。	○ 昨年は体調不良で退職したり、休職した職員が数名いたため、今後は健康診断の検査項目の検討もしていきたい。 たとえば、〇〇歳以上はがん検診も行うなど。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	○ サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。	○ 今後も初期面接は重要と考え、実施する。利用者、家族との関係づくりが充実したものになるように思いや不安、困っていることを十分受け止めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	○ ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。 これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、センター方式などを利用しながら、ゆっくり聞くようにしている。	○ 今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	解説当初は、自宅での介護相談もあったが、最近はほとんど入居を前提にした相談なので、グループホーム以外のサービスにつなげるということには行っていない。		相談時の状況により、その時点で何か必要か考えながら対応していきたく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、行事に参加してもらっている。体験入居で本人・家族の納得の上でサービスを提供している。		本人が職員や他の利用者、サービスの場に少しずつ馴染み、安心し納得しながらサービスを利用できるよう体験入居は今後も継続していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の話には、目線を合わせ、腰をすえてじっくりと耳を傾け感情を共有するよう心がけている。職員は利用者のできないことを助け、利用者にはできることはどんどん手伝って、日常を共に支え合っている仲間と考えるよう努めている。		今後も本人の思いを理解し、感情を共感できるよう努力していく。ともに支え合える関係づくりになおいっそう取組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子や職員の思いをきめ細やかに家族に伝えそれに対する家族の思いを受け止め、本人にとっての最善のケアを考え支えていくための協力関係を築こうと努めている。		何よりも職員への信頼が大切なので、家族の思いをよく理解し、一緒に考えていける自然な人間関係を目指したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家を離れても心は家を離れないように、家族と本人の思いが結びつくような働きかけを心がけている。本人の状況をこまめに報告、相談するとともに焼き肉パーティ、クリスマス会など家族を招いての行事、年賀状(手紙など)をご自身で書いてもらうなど関係が途切れないよう留意している。		グループホームに入居しても家族が本人とのつながりを深めていけるようもっと関われる場面や機会づくりを行っていきたく。また、職員は家族との潤滑油になるよう心掛けたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。			これまでの本人の人間関係を把握し、その関係を大切にしながら途切れないような関わりを続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	皆でできることは多数で協力してもらっている。隣同士で楽しくおしゃべりしている。元気がない人に周りの人たちが心配して声かけている。	○	今後は利用者は「うまく付き合う力」「助け合う力」「かばい合う力」調整力などを発揮できるよう、利用者同士の支え合いを引き出すケアを行っていききたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、家族会に出席してもらったり、お見舞いに行ったり継続的な付き合いを行っている。		今後もサービス終了＝利用者、家族との関係も終了ではなく、関係性を大切に、できる限り断ち切らない関わりをしていききたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケアを重点に置き、各個人の思い、希望、不安、悲しみを会話、日々の出来事で読み取り改善できることはないか、カンファレンス、ミーティングなどで話し合い検討を重ねている。		日々の行動、言葉、動作から表情などから汲み取る努力を今後も継続して行っていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の方から、昔どんなことをしていたか、好きな物、特技など情報を聞き、スタッフ間の情報を共有し、把握に努めている。		センター方式を活用し、家族に記入してもらうように今後も継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々、利用者の日々の心身の変化を見逃さないように注意してできることへのサポートに努めるよう心がけている。遊びりテーション、ドライブ、買い物などの声かけをしている。		センター方式による、アセスメント、カンファレンスなど現状を総合的に把握して今後も継続し努力していききたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	利用者が自分らしく日々暮らせるように、本人、家族の要望を聞き、事業所外の関係者の意見を含めて課題となることをスタッフ全員で話し、介護計画の作成に活かしている。 家族を交えて話し合うことがあまりできていない。	○	家族を交えて話し合う場を今後も積極的ににつくっていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の進行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。 介護支援専門員が今年度は2名体制になったが、初めての計画作成ということで思ったより充実した内容にはならなかった。		月1回全員の介護計画の見直しをしている。 さらに月に1名カンファレンスで重点的に検討している。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄など身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。		今年度ははケアプランソフトの導入があったが、モニタリングは十分ではなかった。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	行っていない。		今後は空き室を利用したショートステイや共有スペースを利用したデイサービスなどグループホームの多機能性を強化していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議などで町内会の方々と意見交換する機会を設けている。	○	今後は周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を検討していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービス、訪問歯科診療、訪問マッサージなどを利用してもらっている。 身体状況に応じて、札幌市のおむつサービスを利用している。		今後も継続していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。 成年後見制度が必要と思われる利用者に、地域包括支援センターとして協力して利用できるように支援している。	○	今後も継続していきたい。運営推進会議を通して連携を図り、認知症の人を地域で支えるための地域資源ネットワークの拡充に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力して通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもある。入居時に本人、家族と話し合い、受診する医療機関を個別に決めている。		本人及び家族の希望を大切に、希望する医師の診療が受けられるよう今後も事業所の体制として支援していく。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	まずは訪問診療の医師に相談できる関係は築かれている。認知症の専門医の受診が必要な場合は診療情報提供書と適切な医療機関を紹介してくれる。		認知症について診断や薬等を含めて全般的に相談でき、必要時専門医等の受診や治療を受けられている。今後も継続していきたい。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護師が1名2ユニット兼務で配置されている。(夜間については電話対応、必要時夜間でも出勤体制にある) 細かな変化も報告し、早めの対応、24時間相談できる体制をとっており、健康管理の支援を行っている。		今後も継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。		入院した時点から、より短期間に入院目的を達成し、スムーズな退院につながるように病院関係者、本人、家族と話し合い、必要な支援を今後も行っていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期の利用者の対応は、家族、医師、看護師、スタッフを交えて話し合っている。また、容態など状態の変化があることに本人の意思や家族の想いに注意を払い、支援につなげている。 「旅立ちノート」を作成し、家族にも記入してもらい揺れ動く家族の気持ちを理解しながら、終末期にむけた方針の共有をはかった。	○	平成20年4月に看取りを実施。今後も希望される利用者もいる。事業所としての体制を整備していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の意思を大切にしつつ、家族とよく話し合い、安心して終末期を過ごしていけるように努力している。急変した場合など、緊急時にもすぐに対応できるよう、医療機関と連携を密に心がけ取り組んでいる。		本人、家族が看取りの希望があり、医師の協力が得られれば、事業所としては対応できる最大の支援方法を踏まえて、チームとして全力で取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	以前からご自宅で使用していた物をできる限り持ってきてもらうようご家族に話をしている。		リロケーションダメージを最小限に食い止めるよう十分な情報交換を行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	勉強会やミーティングの折に、個人情報保護法の理解や秘密保持の徹底など職員の意識向上を図っている。 日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を行っているが、トイレ介助の際、トイレのドアがしっかり閉まっていないことが時々ある。	○	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことは、利用者の尊厳と権利を守るための基本であり、必須の事項である。このことを職員研修で全職員に徹底する予定であったが、研修計画に盛り込むことができなかった。次年度は最優先して研修テーマにしていき、全職員に徹底するよう事業所全体として取り組みたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	フリープランの時の行きたい場所や誕生会でのメニューやプレゼントなど本人の希望を聞き、希望にそうように努めている。自分で上手に表現できない方に対しては質問の仕方を変え、反応を出せるようにまた、日常生活の様子などから察知するように支援している。		今後も職員のお考えを押し付ける事なく、複数の選択肢を提案し、利用者が自己決定できるように努めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴、理美容、行事など職員側の決まりや都合を優先していることも少なくない。ただし、必ず本人の意思確認は行い、意思の尊重を重視している。		業務のスケジュールに利用者の生活を合わせるのではなく、一人ひとりのペースに合わせて、希望に沿った生活ができるよう工夫し、支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご家族やご本人が希望される理美容に行っている方もいます。定期的な訪問理美容の場合は自分の好きな髪型にしてもらっている。 女性の利用者にマニキュアやお化粧をしていたが最近行っていない。	○	今後も女性利用者にはマニキュアやお化粧等を実施していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に調理をしたり、後片付けをしている。 利用者の力を考えられる事はなるべく職員と共に、それが楽しみや生きがいとなっている利用者もいる。 利用者自ら自分の役割を考え進んでやるのが日常となっている。		自分の役割がある事で共に生活を支え合っているという自信となっている。これからも共に暮らす仲間という考えで取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の今までの生活習慣をなるべく変えず、一人ひとりの嗜好品を理解し、本人の様子や時間を見ながら楽しめるように努めている。 お酒・タバコに関しては、持病の方もいるため主治医と相談し、状況に合わせて楽しめるようにしている。		利用者の体調を考慮して、希望に添い楽しめるように支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣を把握し、時間ごとにトイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。		できる限りオムツの使用を減らし、可能な限りトイレで気持ちよく排泄する支援を心がけていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の都合で曜日や時間帯を決めていることが多い。		職員の体制で可能な限り、一人ひとりの意向を第一にくつろいだ気分で入浴できるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく、日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。 寝付けなるときには、添い寝をしたり、ホットミルクを飲んだりしている。		今後も一人ひとりの生活習慣やそのときの状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるように取り組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。たとえば、昔会社社長の方には行事の際「挨拶」をお願いしている。		利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごすことによって「してあげる介護」から「本人が生きることへの支援」とケアのあり方の気づきにもなる。 利用者の活力を上手に引き出せるようなケアを目指したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持に繋がっており、少額のお金を手元に持っている利用者は数名いる。 事業所で管理している利用者でも、外出時や喫茶店のお金などは自分で払えるよう、利用者用の小銭入れを用意している。		今後も一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるようにしていきたい。 しかし、利用者同士の貸し借りや他利用者にあげるなどがあったので、時々残高の確認も必要かと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、本人の気分や希望に応じて、散歩やドライブに出かけるようにし、気分転換や心身の活性につながるように心がけている。		花見、さくらんぼ狩り、動物園、紅葉狩りに出かけた。一人ひとりが楽しめるように取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ふるさと訪問は行ったことはない。利用者の趣味の関係で「小林豊子きもの学院」に行きたいということで行った。事務の方も覚えていて本人もとても喜んでいた。	○	今年度初めて小樽まで遠出し、二回目のさくらんぼ狩りも実施。「○○に行きたい」など利用者の思いが出されたときは、実現するための方策を職員同士で検討し、支援につなげていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年、年賀状をだすための支援を行っている。利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せる環境にある。		今後も、大切な人に自ら電話したり、手紙のやり取りができるよう取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に来やすい雰囲気づくりを心がけている。		職員はいつもあわただしく忙しそうにせず、いつも笑顔で対応できるよう徹底していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを行っている。「身体拘束防止」の研修会に出席したり、出席したスタッフから報告を受け全スタッフで共通認識できるよう取り組んでいる。		その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか、その日のリーダーを中心に点検するような体制を検討していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関はチャイムが鳴るようになっているが、鍵はかけていない。スタッフ間の声かけ、利用者の行動を見守り鍵をかけなくても外に出ていく利用者はいない。		徘徊する利用者があるので、近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえるような地域との連携やネットワークづくりの推進に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員一人一人が気を配り、常にどこに誰がいるかを把握し、安全に配慮している。		今後も全員の様子をさりげなく、常に見守っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	過去に洗剤を飲んだり、せっけんを食べようとする利用者がいたので、保管・管理は徹底し厳重にしている。 洗剤やせっけん・包丁などは見える場所には置かず、収納できるところに置き見えないようにしている。	○	一律に注意の必要な物品を排除するのではなく、利用者の状態を十分に把握しながら危険を防ぐための検討や取り決め、工夫を今後考えていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒアリハットを記録し、職員に回覧し、共通認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への謝罪と説明・報告を行っている。		一人ひとりの状態から予測される危険をもっと検討し、事故を未然に防ぐための工夫をケアプランに盛り込むようにしている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	今年度平成20年6月に、職員研修会で「緊急対応」の研修会を実施。シュミレーションを交えて行った。年1回実施している。	○	年1回は研修会で全職員が応急手当の実践を体験できるように事業計画に盛り込んでいる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年1回行っている。災害を想定した訓練は行っていない。 スタッフ同士での避難誘導シュミレーションを行い、どのような方法がより早く避難できるかわかった。 運営推進会議でも地域の方々や避難方法について検討がなされた。	○	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力が得られるよう町内会とも連携を図っていきたい。 今後も運営推進会議においても災害対策について検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者一人ひとりに起こりうるリスクについて職員間では検討するが、家族に対して詳細に説明していない。 ケアプラン説明時に盛り込んでいる。		一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、威圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を家族と今後話し合っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の血圧・体温測定の実施。食事量・排泄チェック、顔色・表情等に注意し、体調の変化や異変があった場合は速やかに医療スタッフに報告し、指示を仰ぐとともに介護記録には特別欄に色分けて記入し、他スタッフにわかりやすさを心がけている。		普段の状況を職員はよく把握しており、少しでもいつもと違う感じがあればバイタルチェックを行い、報告がある。これまで通り、今後も速やかに情報を共有し、対応に結びつけていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	副作用や効果はだいたい理解できていると思うが、すべてを詳しく理解するまでは至っていない。薬に関する情報書があるので、不明な時は調べることができる。	○	今年度は9月に「薬に関する職員研修会」を実施。薬剤師による薬の話など基礎知識を学ぶ機会になった。次年度も研修会の実施にむけて検討していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	自力排便の難しい利用者に対しての対応に注意している。繊維質の多い食品や水分量の増加を目指しているが困難な場合もある。現在はできる限り水分量を多くとるために、飲み物の味を変えるなどの工夫に力を入れている。		認知症高齢者の便秘が及ぼす影響は大きいので、できるだけ自然排便につながるよう、取り組んでいきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前はポリドントによる義歯の消毒・洗浄を行っている。	○	今後も口腔ケアの重要性を全職員に理解してもらうために、次年度の研修内容に盛り込む予定である。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量は一人ひとりの状態に合わせ盛り付けをし、副食が進まない利用者には汁物の具を多くしたり、好みの物を配膳したりしている。また、水分量チェックをし、不足している場合には好みの飲み物で水分確保に努めている。	○	次年度も管理栄養士の専門的アドバイスをもらう予定である。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者及び家族に同意のもと、職員ともにインフルエンザ予防接種を実施している。ノロウイルスに関してはミーティング等で注意事項を確認している。2階でノロウイルスの発生があったが、1階には感染は広がらなかった。	○	事業所内でおこりうる感染症マニュアルをリニューアルし、全職員で学習して、予防対策に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	1週間に一度買い物に行き、常に新鮮な食材を購入している。もやしや豆腐など日持ちのしないものはその都度購入している。台所のふきん等も毎食後、消毒している。	○	新鮮で安全な食材の使用や台所の衛生管理方法は職員の常識に委ねられている。今年度、マニュアル作成も検討していく予定であったが実行できなかったため、次年度の課題にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>玄関先に、夏はプランターに花を植え、華やかで親しみやすく、冬は除雪をこまめに行い、周囲の家々にも馴染むように工夫を行っている。</p>		近所の人が気軽に立ち寄れる雰囲気をかもしだすような工夫を今後もしていきたい。
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>居間には写真を飾ったり、玄関先には生け花、季節ごとの飾りを工夫している。夜間明るすぎないように足元ランプを使用している。</p>		今後も継続していきたい。
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>食卓いすの他に三人掛けソファ、畳みベンチを置き、気軽に腰掛けられる。食卓いすも食事時以外は自由に座り、利用者同士が自然と隣り合って座り会話されている。</p>		1階については一人で過ごせる居場所がないため、家具の配置などを工夫し、一人の居場所づくりを考えていく。
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>居室には、なじみのものや好みのものがある。ベッド上からでも好きな動物のカレンダーが目につくところに張り付けたり、のれんをつけたりと、家らしさに近づけるための工夫はしている。</p>		その人らしい居室の雰囲気になっているので、今後も入居時は使い慣れたものをもってきてもらうようにしたい。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>空気の入換えや温度調節については寒暖計を見ながら職員は常に意識している。利用者のいないときに空気の入換えなど適宜行っている。</p>		できる限り、気になるにおいや空気のおよみがないよう、換気や消臭に努めていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。</p>		本人の活動性を維持するために、車いすなども状態に合わせて取り入れている。今後も利用者の自立した生活が送れるよう工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや居室の場所がわかりやすいように大きな文字での表記をしている。		利用者の状態に合わせて環境整備を今後も行っていきたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に野菜やお花を植え、利用者と共に水やりや収穫を行っている。夏には流しソーメンや夏祭りを行い、季節を感じられるよう活用できている。		今後も玄関先にベンチを置き、利用者が気軽に涼んだり、日向ぼっこなど外気浴が楽しめるようにしていく。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点

等を自由記載)

事業所として、研修会、勉強会の開催を行いスタッフの質の向上を目指し、働きやすい環境を常に意識しています。また、季節ごとに、家族を含めた行事、外出の機会が多く、利用者本位に支援しています。